

Case Study SANBI Product Center Co., Ltd.

株式会社サンビプロダクトセンター

Arbortext®で専門書籍の自動組版を実現 コンテンツのマルチメディア展開も加速

ペーパーレスとWeb化の流れに従来型ビジネスモデルの変革を迫られている印刷出版業界。そのなかにあつて、データベース活用ノウハウで市場を切り拓いているサンビプロダクトセンター。同社はArbortext® Advanced Print Publisher™の導入で、ベストセラー書籍の自動組版を達成すると同時に、書籍コンテンツのマルチメディア展開を加速させている。

書籍制作の先端企業

理工学書や医学書、学会誌や論文誌など学術系の専門書籍の編集・組版・制作で高い評価をうける三美印刷。その編集制作部門が独立し、書籍制作に関わるデータベース構築からシステム開発、マルチメディア展開など、出版の先端領域に特化した事業を展開するのがサンビプロダクトセンターだ。

1,000ページにもおよぶ便覧や辞典の編集制作に独自のノウハウを持つ同社は、専門書籍の制作を数多く手がけるが、なかでも、『今日の治療薬』（南江堂）は書店ランキングで常に上位を占めるベストセラーだ。

『今日の治療薬』は現在医療現場で使用されている薬の最新情報を「薬剤名」「組成・剤形・容量」「用量」「備考」という区分で簡潔に紹介したもののだが、その組版の構造化ルールは決して単純なものではない。サンビプロダクトセンターはデータベースとプログラミングを駆使し、このコンテンツを自動組版すると同時に、電子辞書への展開を支援している。この自動化のインフラがPTCのArbortext Advanced Print Publisher (APP)だ。

高まる要件、増大する負荷

便覧や名簿、目録といった書籍は、大量の情報を体系的に整理して見せなければならない。そのためにはヘッダーや脚注、ページ、索引の整合性はもちろん、記号や行間、文字量など情報の体裁の微妙な調整が欠かせない。

APPを導入する前、サンビプロダクトセンターは自前のシステムでそうした作業を処理していたが、細かな調整を自動で行うことができないうえ、版元から支給されたデータを組版用に変換するプログラミングに非常な労力を要していた。

さらに、市場では書籍コンテンツをCD-ROMや電子辞書などのかたちで求める声が高まり、出版社はこれに応えるため書籍データベースの二次利用を考えはじめていた。

これを実現するにはSGMLやXML形式で構造化した書籍デー



『今日の治療薬2010』（南江堂）「折組み」「判断組み」も自動組版で対応

タを単一データベースに集め、変更を機敏にこなしながら多種メディアに展開するインフラが必要だったが、当時のサンビプロダクトセンターには、それを完璧にできるインフラが無く、マルチメディア展開のフローも書籍制作と分かれていた。

これでは、書籍データからの加工の際、繰り返しの修正を避けることはできず、増えていく受注のボリュームを考えるとこのやり方には限界が見えていた。

APP導入で自動組版を実現

データベースを一元化し、そこからダイレクトに組版を生成する仕組みを実現するソリューションとしてサンビプロダクトセンターが選択したのがAPPだ。「APPにはプログラム言語や組版機能が豊富に揃っているので、それらを組み合わせれば、いままで応えられなかったお客様の要件にも十分応えられると考えました」とサンビプロダクトセンタークロスメディア部部長 黒見英利氏は導入理由を話す。

実際、APPはソフトウェア環境内で必要機能を追加する高い柔軟性を備えている。クロスメディア部でAPPの展開を指揮している担当リーダー山口雅広氏もその点を指摘する

